



# 子育てチャンネル

## 子どもたちに教えられて

私たち家族が東川へ来て14年目になります。わが家には2人の子どもがいます。長男は、早いもので高校生になりました。最初の子どもはいくつになっても心配なもので、その息子のありがちなエピソードです。

今では笑い話ですが、息子の小学校入学前だったと思います。

家の中にいるはずの息子の姿が見えなくなり、名前を連呼すると「ここだよ」と息子がトイレから出て来ました。(笑)

それ以来トイレに行く時は必ず「トイレに行つて来る」と言ってから行くようになってしまいました。子どもも迷惑ですよ。反省しています。

最近印象に残っているエピソードです。高校の入学式の時、「一人ぐらいは東川の子と一緒にのクラスになるかも」と期待していた息子。ところが東川の子はクラスに自分一人だけだったのです。息子のショック

が大きかったことは言うまでもありません。

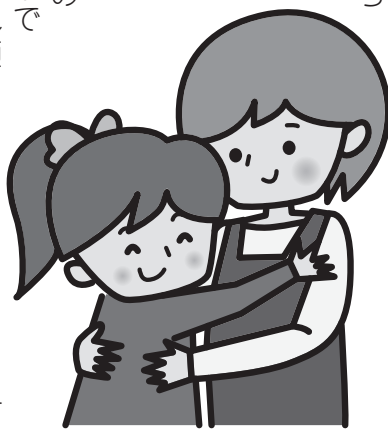
今までそんなに落ち込んだ姿は見たことがなかったので、とても心配になりました。息子は積極的な方ではなかったのですが、明日からが不安になり、息子に

「自分から行動(話しかけ)していきよ」と話をしました。

次の日の朝は、親子でドキドキ。頑張れ」と送り出しました。

息子が帰宅しました。その時の息子の顔(笑顔)を見て安心しました。「何人かと話をして友だちになつた」とうれしそうに話してくれました。成長した息子が頼もしく思えました。

これからも困難なことが



いっぱいあると思いますが、自分の力で解決し、自分の進む道を見つけて努力してくれることを願っています。私にはもう一人、心配な小学生の娘がいます。娘は障がいというハンデを抱えて生まれてきました。発達はかなりゆつくりで、

発達のための手助けが必要でした。通常は考えられないです

が、歩

くため

に生後

4カ月

ごろから

体を動かす訓練が始まり、言葉が話すに

も訓練が必要だったのです。

訓練の甲斐があつて、2歳半ころ歩けるようになりました。言葉は、今でもよく聞き取りにくい発音だったりしますが、よく覚えたと思います。成長するに従い、問題がいろいろ出ます。最初の問題は、幼稚園への

の進学でした。東川の幼児センターはどうかな?と不安を抱きつつ説明を聞いて入園を希望したところ、快く娘を受け入れてくれました。最初はどうなることかと心配でしたが、先生方の心遣いで他のお子さんと触れ合いながら、園生活を過ごすことができました。

現在は小学校の支援教室(学級)でお世話になっていきます。校長先生、先生方からの温かい声掛け、同級生、在校生の皆さんから娘への優しい声かけ、手助けは、親にとつてとてもありがたくうれしく思います。

成長するにつれて、これからも頭を悩ます問題が待ち構えているでしょうが、ここ東川でみなさんのお力を借りながら、親子で頑張りたいと思っています。

娘を通して、人と触れ合うことで成長することが出来ることを改めて感じています。

小林 照美